

會社は醜類一味に

餘つ程尻ツぽを握られたか？

彼等の我儘は云ひなり放題

突如正義派五名を解雇す

一方、組合員手帳外脱部の解雇各廠の抗議並に、ドロ幹部解雇の要求に懸念せし同社支配人宇根利近は遂に彼等の僥倖に乗せられた事を告白し再考を約するに至つた。然るに越えて十五日、工場退出時間直前に於て突如として正義派幹部 西谷徳藏、中山正太郎、生澤龍三、清水將志、越川哲の五氏の解雇を指示するに至つたので、直に大崎労働會館に手掲げて上述の如く決議して目的貫徹の爲めに協議を進めつつあるが奇怪なのは會社がドロ幹はその儘にして置いて却て正義派を解雇し、僥倖から云は不都合だとねぢ込めば前記の如く宇根支配人は彼等(組合同盟)の僥倖に乗せられたことを云ふし、しかもその後には掌を返すが如く突如正義派幹部を解雇し組合同盟並にドロ幹一味を擁護する態度を執つてゐることだ。更に別項の如く山口秀人に對する待遇は破格で彼等の僥倖者買料理屋遊びの金も言ひなり放題に會社から出して居たのであるが、之等よりして、會社は彼等ドロ幹に頭の上からめ様な大きな尻ツぽを握られてゐるのではないかと専ら評判だ。

出勤の従業員を

百餘名で滅多打ち

重軽傷十數名を出す

さる生澤龍三氏の入場を阻み、遂に罵口、棍棒、其他の兇器を以て滅茶苦茶に殴り重傷を負はせ、之を助けんとするその他の従業員も亦物かげにかくれたる暴漢の爲めに亂打され十數名の重軽傷者を出すに至つた

會社遠からず屈服

爭議團曰く

「會社は五折會社の仕事が無視してゐる折衝爭議の爲め、園池、金紋等の競争工場に仕事を取られる危険もあり、殊に醜類を援助して興論を無視する事は大きな不利益をかもすことであるから間もなく我々に屈服しなければならないだらう」と意氣軒昂

山口はどんな生活を
して居るか

- 一、一ヶ月十日位しか出勤しないが家賃五十圓の家に住んでゐる。
- 一、出勤は毎朝八時頃、午後は三時頃歸つても一日務めたことにしてゐる。
- 一、料理屋に行つてゐる時間も給料を買つて居る、暇さへあれば五反田、品川方面の料理屋待合に行く。
- 一、彼の料理屋仲間が秋金こと秋山次郎、小林龍次、田中信次郎、

唾棄すべき

加藤君等の態度

今回の問題について之によく似てゐる昭和二年の幹部電気工場問題を想起する。たゞ重要な相違點は、幹部工場のは組合同盟や日労働(現大衆等)が自派の勢力擴大の爲めに組織組織に藉口して團體協約の東京總工組合大崎第六支部を崩壊せしめんとしたことだ。

田中庄三郎、荒川泰次、成澤平馬等である

一、彼は糟粕の妻を追ひ出して悪者を受身して妻にした

一、六月の役員改選の時既成政黨と同様に色刷連名の推薦状を配布し運動員を使つて従業員を脅迫して投票を強い辛ふじて一味が當選した。

一、その當選祝ひを五反田の料亭「かき松」で催ふし一味を招待し醜者を擧げて豪遊した。同選挙で使つた金が四百圓と云はれてゐる。

之より先彼等少數のドロ幹は直に残留少數者の會合に於て正義派幹部の除名を決議し直に會社に向つてその解雇を強要十三日夜半より彼等一味は日本大衆黨並に獨断會一派八九十名の應援を求めて同社工場内に集合し一般従業員の出勤に際し未だ解雇の通知を受け

を發して居り、今回の品川製作所問題は公金費消の醜行の爲め醜類を盡かされて従業員が總同盟に、醜類一掃の爲めの援助を求めたのに因を發してゐる。同組合長であり、大衆黨幹部の加藤龍十、野田次郎、羽月源次が、自派の醜類を擁護するといへば、公金費消の醜類を擁護し正義派の醜類の爲め策動するが如きは唾棄すべきことだ。